

The Japan Association of Radiological Technologists
ネットワーク・ノウ

Network

Now

JART情報
<https://www.jart.jp>

2025 No.595

7/1

発行所 公益社団法人日本診療放射線技師会
〒108-0073 東京都港区三田1-4-28
三田国際ビル22階
TEL. 03-4226-2211 FAX. 050-3153-1519



第88回公益社団法人 日本診療放射線技師会定時総会 開催される (Web併催)

2025年6月14日(土)午後2時より、第88回定時総会が日本診療放射線技師会事務所会議室でWeb会議システムを併用して開催されました。代議員の出席確認ならびに投票は、Web会議システムを用いたe投票システムによる方法で行われました。また総会傍聴者向けにはYouTubeでも中継配信されました。

園田優理事の進行の下、江藤芳浩副会長による開会宣言に続き、上田克彦会長からあいさつがありました。上田会長は、医療従事者の処遇改善の遅れが病院経営を圧迫し、さらなる医療危機を招く可能性がある現状に触れ、この危機を解決するためには処遇改善を含めた抜本的な対策が不可欠であると強調されました。また現在、実施中のアンケート調査への協力を呼び掛けました。

続いて43人の令和6(2024)年度物故者に対し、出席者全員で黙とうをささげました。その後、功労表彰者1人、地区役員功労表彰27人の紹介がありました。

総会運営委員会の石浦幸成委員長から、委任状ならびに議決権行使書の数について報告があり、定款第18条に基づき本総会の成立が告げられました。また総会議事規程第13条第2項に基づき、高尾渉代議員(岡山県)、川又渉代議員(秋田県)の2人の議長立候補者があり、賛成多数で承認されました。総会職員任命についても、賛成多数で承認されました。

報告事項では、令和6(2024)年度事業報告、決算報告、独立監査人の監査報告、期末監査報告ならびに令和7(2025)

年度事業計画、予算の内容が執行部・公認会計士・監事から報告されました。

審議事項では、議長の議事進行により2つの議案が審議されました。第1号議案「定款改正(案)について」は、理事数を現行の「22名以上25名以内」から「22名以上33名以内」に増やす改正案であり、これは、地域理事の役割を地域代表理事としての職務に集中させ、地域技師会との連携をより充実・強化させることを目的としています。第2号議案「役員選任規程改正(案)について」は、第1号議案の定款改正に伴う全国理事定数を「11名以上14名以内」から「11名以上22名以内」とする改正案です。これらについては、定款改正・諸規程見直し委員会の西小野昭人委員長から説明がありました。審議の結果、いずれも賛成多数で承認されました。

続いて2025年9月12日(金)から14日(日)まで、福井市で開催される第41回日本診療放射線技師学術大会の紹介と参加案内が、江端清和副大会長からありました。

最後に、富田博信副会長より閉会の辞が述べられ、本定時総会は無事に終了しました。

定時総会終了後には江端清和業務執行理事から、本年度から開催するワクチン筋注講習についての説明と、第41回学術大会で実技講習会を実施する旨の案内がありました。

本総会の詳細は、会誌6月号の第88回定時総会資料ならびに会誌掲載予定の第88回定時総会議事録(抄)をご参照ください。

JART求人広告掲載について

会誌に掲載する診療放射線技師募集の求人広告を随時受け付けております。申込書ならびに募集要項につきましては、本会ホームページ(手続きについて→各種様式→その他)よりダウンロードしてご確認ください。

なお、掲載月の前月5日が掲載申し込みの締め切りとなっております。

INFORMATION

2025年度 第1回理事会 開催される (Web併催)

2025年5月15日(木)午後6時より、2025年度第1回理事会が三田国際ビル会議室でWeb会議システムを併用して開催されました。冒頭、上田会長からあいさつがあり、本年度から技師籍登録初年度の入会費用が無料化されたことに伴い、新たな会員獲得のため入会促進とそれに対する協力依頼について述べられました。

理事会の主な議題は、「令和6年度事業報告・決算報告」「理事定数増の定款等改正」「組織図の変更」「学術大会の大会期間」でした。

令和6年度事業報告について、上田会長から事業報告総括の報告がありました。内容は、初めて国から原子力災害医療協力機関に指定されたこと、ワクチン接種研修の実施、事務所移転、タスク・シフト/シェア推進状況、性腺防護シールド廃止の活動、本会組織率の増加、生涯教育の各ラダーe-ラーニングコンテンツの視聴無料化、第1回日本放射線医療技術学術大会の日本放射線技術学会との合同開催、国際事業への講演招聘等の対応などについてでした。続いて園田理事から事業報告について詳細な報告があり、診療放射線学および診療放射線技術の質の向上発展、診療放射線学に関する研究と啓発、放射線診療の安全確保、生涯教育、他団体との連携活動、表彰などに関する各事業について、総会資料を用いて説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

次に江端業務執行理事から、令和6年度決算報告の貸借対照表、貸借対照表内訳表、令和6年度決算額について詳細な説明があり、審議の結果、全会一致で承認されました。

理事定数増の定款等改正については西小野理事より、前回理事会で承認された定数増に伴う定款改正案(理事数を最大25名以内から33名以内へ変更)、および役員選任規程改正案について説明がありました。組織図の変更については園田理事より、STAT画像報告委員会と検査説明委員会がすでに個別に活動していることから、チーム医療促進委員会から独立した常設委員会とするとの説明がありました。その他、委員会・分科会の委員変更、日本オートプシー・イメージング技術学会の本会承認学会への認定、会費未納者・退会者に対する債権回収について審議され、全会一致で承認されました。

学術大会の開催期間の検討については、JART Vision 2040の短期目標である「事業のスリム化(学術大会の在り方の検討)」に基づき、学会運営の効率化やスリム化の検討が必要であることや、全会員が平等に権利を享受できるような配慮が必要であること、さらに学術大会運営委員会で検討された内容も合わせて園田理事より説明がありました。また追加で上田会長より他団体の学術大会運営事例の報告があり、本議案は次回理事会で継続して検討することとなりました。

報告事項として、小川監事より令和6年度監査報告書に基づき監査内容と意見が述べられました。また中村監事より、今後の事業運営について9項目の意見が述べられました。また独立監査人の監査報告書の提示がありました。

最後に、上田会長よりあいさつがあり、本理事会は終了しました。詳細は、会誌に掲載される2025年度第1回理事会議事録(抄)をご参照ください。

2025年度 第2回理事会 開催される (Web併催)

2025年5月24日(土)午後2時より、2025年度第2回理事会が三田国際ビル会議室でWeb会議システムを併用して開催されました。冒頭、上田会長からあいさつがありました。なお本会議は、移転後の新事務所での総会開催を想定したWeb機材を用いて実施されました。

理事会の主な議題は、「第42回JCRTのテーマ、コンベンション業者の選定、予算」「チーム医療推進協議会の構成団体のJCRTへの参加費用」「第43回JCRTの立候補」「日本の診断参考レベル(2025年版)」についてでした。

第42回JCRTのテーマについては、鈴木理事より学術大会の開催概要の説明がありました。大会テーマとして「新たな潮流、紡ぐ灯 人とAIがもたらす放射線技術の未来」が示され、令和7年度スローガン「安全と信頼、診療放射線技師の使命と責任を果たそう」とも連動したものである旨の説明がありました。続いて第42回JCRTのコンベンション業者の選定と予算案について詳細な説明があり、運営業務委託については、複数社から相見積もりを取得し、最も低価格の業

者を選定したとの報告がありました。審議の結果、いずれも全会一致で承認されました。

次に、チーム医療推進協議会の構成団体によるJCRT参加費用などについて、江端業務執行理事より説明がありました。構成団体よりJCRTへの参加要望があり、構成団体間の交流促進、参加者の増加、相互協定による相乗効果を目指すことなどが述べられました。参加形式は各団体が取りまとめた事前登録のみとし、参加費は本会会員の事前参加登録費と同額とする提案がありました。また上田会長より、団体間連携の重要性について補足説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

続いて第43回JCRT開催地について、鈴木理事より説明がありました。福岡県診療放射線技師会の塩谷会長より立候補があり、開催期間については、今後、理事会で検討することになりますが、福岡市内において2027年9月から10月の間で複数案が提示され、審議の結果、全会一致で承認されました。

その他の議題としては江藤副会長より、日本の診断参考レベル(2025年版)についての調査結果が取りまとめられ、報告書が作成されたとの説明がありました。公開に際しては、医療被ばく研究情報ネットワーク(J-RIME)および参画団体からの承認が必要であるとの報告がありました。また富田副会長より、DRLは2015年から調査が開始され、線量の適正化が順調に進んでいるとの補足説明がありました。審議の結果、全会一致で承認されました。

さらに臨床実習指導施設の認定に関する細則の改正、能登半島地震における被災会員の会費免除保留者の再承認、入会者・退会者・会費免除の承認、委員会・委員の追加、2024年度学術奨励賞受賞候補者の推薦、社会活動表彰候補者の推薦についても審議され、全て全会一致で承認されました。

報告事項としては、堀住事務局長より会員動向について報告があり、2025年4月末の時点で会員数が33,354人、組織率は56.3% (医療従事者数は59,265人(約2,400人増加))であるとのことでした。江端業務執行理事からは月次決算報

告があり、クレジット決済による会費徴収が順調であるとの報告がありました。

また各地域理事、各種委員会・分科会から43項目の報告があり、資料とともに共有されました。加えて上田会長より、本年度から技師籍登録初年度の方については入会金および会費が免除されること、本会が提供する無料のe-ラーニングを活用できるようになっていることを各都道府県にご説明いただくとともに、フレッシュャーズセミナーなどを通じた入会促進活動の実施、継続的な会員の確保・増加に取り組んでほしい旨の発言がありました。

最後に、園田理事より今後のスケジュールの確認があり、次回開催の第88回定時総会終了後にワクチン筋注講習会に関する説明プレゼンテーションを実施し、YouTubeの傍聴者も視聴できるようにすることが紹介され、本理事会は終了しました。詳細は、会誌に掲載される2025年度第2回理事会議事録(抄)をご参照ください。

第74回日本医学検査学会 参加報告

2025年5月10日(土)・11日(日)、グランキューブ大阪(大阪国際会議場)で第74回日本医学検査学会が「+α～臨床に貢献できる検査技師とは～」を大会テーマに開催されました。その中で、日臨技/日放技共催シンポジウムが「臨床検査技師と診療放射線技師の共通の課題と未来の展望」をテーマに開催されました。

本シンポジウムでは、JART側から座長を江端業務執行理事が、シンポジストを江藤副会長が務めました。江藤副会長は「2040年問題を見据えた診療放射線技師業務の課題と展望」と題し、いわゆる「2040年問題」と称される少子高齢化による社会構造変化の影響と診療放射線技師の需給問題、さらに将来を見据えたJART事業の取り組みについて講演しました。日本臨床衛生検査技師



会からは2人のシンポジストが登場し、余力確保のための臨床検査部門へのDX導入の取り組みの紹介、さらに超音波検査に多くの職能が携わる現状と課題についてそれぞれ講演されました。本シンポジウムは、医療施設において検査部門を担う診療放射線技師と臨床検査技師が、将来を見据えた取り組みや課題を共有することができた、大変有意義なシンポジウムでした。

本学会初日に開催された式典には、本会から上田会長が来賓として出席しました。また初日夜の情報交換会に上田会長、畦元顧問が参加し、それぞれ壇上であいさつされ、将来を見据えた日本臨床衛生検査技師会との連携や政策の重要性を述べました。

今回、他職種と共通の課題について意見交換することの重要性を改めて感じる事ができた学会参加でした。



日本臨床衛生検査技師会との定期連絡懇話会 開催される (Web併催)

2025年5月23日(金)午後4時から、一般社団法人日本臨床衛生検査技師会事務所で定例の懇話会が対面とWebとのハイブリッドで開催されました。

日本臨床衛生検査技師会(以下、JAMT)からは、Webでは横地会長、竹浦副会長、山寺副会長が、対面では西浦副会長、深澤専務理事、小松専務理事、橋爪事務局長の7人が出席されました。本会からは、上田会長、富田副会長、児玉副会長、江藤副会長、江端業務執行理事、堀住事務局長の6人が対面で出席しました。

本懇話会は定期的に開催されており、今回で5回目となります。両会の業務拡大に伴う諸問題や告示研修の進捗状況、学術大会などの活動報告などの情報交換を行うことを目的としています。

冒頭にJAMTの横地会長から、その後に本会の上田会長からごあいさつがあり、続いて懇話会が開始されました。

JAMTからは、厚生労働省関連に提出した4つの政策要望(検体検査品質精度管理、検査精度管理センター設置、高度技術を必要とする人的要件新設など、ケアマネジャーの受験資格付与など)の内容が説明されました。また共通している告示研修の修了者と、年次別修了者の状況と目標値について情報の共有が図られました。

本会からは、3つの政策要望(医療DXの推進における技師の貢献に対する評価、医療被ばく低減施設認定への取り組みの評価、画像診断用ディスプレイの保守管理の施設基準へ



の取載と管理に関する診療放射線技師の評価)について説明がありました。また原子力規制委員会から原子力災害医療協力機関の指定を受けたことが報告されました。

その後、本会の畦元将吾顧問から、両団体に向けてご自分の経験を基にご助言を頂戴しました。

今回の懇話会では、両会共に医療DXに向けた取り組みについて活発な意見交換がなされ、大変実りある懇話会でした。

最後に両会長は、今後も互いに情報を共有し事業を進めていくことを確認して、懇話会は終了しました。



本会への入会手続きについて (お知らせ)

ホームページからでも、書類でも・・・本会への入会は、次のいずれかの方法によりお手続きいただけます。

- ❶ 本会ホームページ (<https://www.jart.jp>) 右上の“新規入会”をクリック
- ❷ 書類のご提出

書類のご提出によるお手続きの場合は「申込書」を本会事務局までご請求ください。

TEL : 03-4226-2211 E-mail : info@jart.or.jp

ぜひ周りの非会員の方に、お知らせください。

INFORMATION

第6回MCI(軽度認知障害)予防検査に関する勉強会 開催される

2025年5月26日(月)午後3時より、衆議院第一議員会館で「第6回MCI(軽度認知障害)予防検査に関する勉強会」が開催され、日本診療放射線技師会からは上田会長、畦元顧問、江端業務執行理事が出席しました。開催に当たり、木原誠二衆議院議員による、認知症予防の重要性とMCI期での治療開始への強い期待を込めたあいさつに始まり、神田潤一衆議院議員の司会進行で会は進みました。

今回は「認知症や軽度認知障害の早期発見・早期介入に関する取り組みについて」のタイトルで、国立長寿医療研究センターの櫻井孝所長の講演があり、その後、質疑・意見交換となりました。

出席された議員から積極的な意見や質問が出され、櫻井所長の他に東京大学大学院の岩坪威教授、厚生労働省老健局の担当官などから回答や意見が述べられました。MCI勉強会としての提言(案)も審議され、今後、文言調整などを経て取りまとめられることになりました。

会の最後には、木原議員より「本勉強会の立ち上げからこれまでの話の取りまとめは、畦元先生が議員会館におられた時に始まった話であり、大変ご苦勞いただいたものである。軽度認知症の早期発見事業を進めていく上で、ぜひ、今後とも畦元先生の積極的なお力が必要である」とのあいさつで締めくくられました。
(業務執行理事 江端 清和)



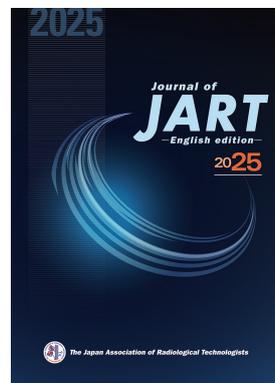
英文誌 Journal of JART –English edition 2025– 配信のお知らせ

このたび、英文誌 Journal of JART –English edition 2025–を配信致しました。本誌の内容は、学術コンテンツとしまして、JART会誌へ掲載済みの論文・寄稿の中より優れたものを掲載しております。

※英文誌 Journal of JARTは、会員の皆さまに電子配信とさせていただきます。以下の本会Webサイトより、ご自身でダウンロードくださいますようお願い致します。

本会ホームページの“会誌・投稿”の“Journal of JART –English edition–”からダウンロードできます。

ダウンロード URL は、<https://www.jart.jp/journal/jart-en/index.html> です。



「Journal of JART –English edition–」 J-STAGE 掲載のお知らせ

「Journal of JART –English edition–」は、J-STAGE(科学技術情報発信・流通総合システム)に掲載し、論文を会員内外に広く発信しています。J-STAGEは、国立研究開発法人科学技術振興機構(JST)が運営する電子ジャーナルプラットフォームです。論文検索など有効にご活用ください。

INFORMATION

診療放射線技師のための フレッシュャーズセミナー 開催報告

和歌山県

一般社団法人和歌山県診療放射線技師会 副会長 栗山 翔太

2025年5月18日(日)、和歌山県立医科大学 次世代医療研究センター セミナー室で「診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー」を開催しました。

県内の診療放射線技師間のつながりや職場におけるコミュニケーションづくりを目的とし、新卒者・引率者を含め14人の参加がありました。セミナーは従来通りの開催要項に従い、エチケット・マナー、医療コミュニケーション、感染対策、医療安全、気管支解剖、被ばく低減など、充実した講義が行われました。

新人技師としてスタートした2カ月間は、臨床現場において技術的な教育に集中してしまい、医療従事者としての基礎となる接遇やコミュニケーション、医療安全などを学ぶ機会が少ないため、このセミナーはとても重要かつ有用であると考えます。

また講義内容には含まれていませんが、セミナー後に和歌山県立医科大学附属病院 中央放射線部の施設見学会を催し、最新の医療機器などを見学していただきました。

和歌山県外から就職された新人技師も参加しており、限られた時間ではありましたが新人技師の間で交流を深め、和歌山の魅力を知っていただけたかと思えます。



本年度より、新卒者（技師籍登録初年度）に限り、日本診療放射線技師会の入会金・年会費が無料となっております。和歌山県診療放射線技師会でも新入会無料キャンペーン（紹介者特典付き）を実施中であり、入会促進につながればと考えております。



徳島県(Web開催)

一般社団法人徳島県診療放射線技師会 会長 藤原 良介

2025年5月18日(日)、3人のご参加を頂き「診療放射線技師のためのフレッシュャーズセミナー」をWeb形式で開催しました。コロナ禍が過ぎた現在も、施設によっては集合研修を避ける傾向があることと、在宅での参加が可能であり、移動の負担がないことから、本県ではWeb開催の方式を採用しています。

セミナーの内容は①エチケット・マナー②医療コミュニケーション③医療安全④感染対策⑤胸部単純写真⑥被ばく低減——の6講義を行い、併せて入会案内をさせていただきました。

今回、参加者が3人であったことから参加者とのコミュニケーションが取りやすい環境でしたので、講義の間の時間や終了後の時間を利用してフリーな会話の時間を設けました。

3人それぞれに、診療放射線技師を目指す要因となったのは、小・中・高校の際に患者として診療放射線技師との接点があったことでした。3人が進路を決める際に診療放射線技

師を選択したのは、過去に接した診療放射線技師の評価が高かったことに他ならないと感じました。

また患者から医療行為をする側に立ったとき、戸惑いを感じたと感想を述べていましたが、われわれ診療放射線技師が想像する以上に、患者は言動や振る舞いを観察していること、そして評価していることを忘れないことが肝要であると感じていただきました。

また患者の信頼を得るための一つの要素として、知識や技術のスキルアップを図ることは極めて重要で、今後も研修会や学術大会への積極的な参加が重要であることを重ねて伝えました。

今後も、機会を捉えて参加者のとコミュニケーションの時間をつくり、診療放射線技師会の活動にご理解、ご協力いただけるよう工夫していきたいと考えています。

告示研修 開催報告

兵庫県

公益社団法人兵庫県診療放射線技師会 会長 後藤 吉弘

兵庫県診療放射線技師会では、県内全ての診療放射線技師が公平に告示研修を受講できる環境を整えるため、年間10回の研修会を企画・開催してまいりました。地域性を考慮し、遠方にお住まいの技師の方々にも受講いただけるよう、遠方にファシリテーターを派遣する体制を整えました。

当初は新型コロナウイルス感染症の影響により、開催そのものが困難な状況が続きました。特に、大規模な会議室や自習室を確保することに難航しましたが、積極的にご協力くださる施設にお申し、ご支援を賜ることで開催にこぎ着けることができました。交通アクセスにも配慮し、より多くの方に参加いただけるよう各地での開催を調整しています。また告示研修の年間スケジュールは月刊ニュース誌および会のホームページで広く周知し、分散開催でもある神戸・姫路・阪神地域のいずれかの地域で必ず受講いただけるよう、強く広報活動を行う予定です。

現在、この地域開催も最終年度を迎えており、残念ながら一部の日程では満席に至らない会場も出てきています。まだ受講率100%には至っていないことを重く受け止め、引き続きこの研修が「義務研修」であることを丁寧に説明し、全技



師に受講いただけるよう努力を続けてまいります。

さらに兵庫県特有の取り組みとして、告示研修を修了された方を対象に、現場での静脈路確保に困らないよう支援する「静脈注射ステップアップセミナー」も企画しております。自信を持って実践に臨めるよう、研究会などを通じて診療放射線技師による静脈穿刺の時短効果などについても広く情報発信を行っています。今後も地域性を考えた実践的な研修を継続し、診療放射線技師一人一人のスキル向上と安心・安全な医療の提供に貢献してまいります。

福岡県

公益社団法人福岡県診療放射線技師会 会長 塩谷 正貴

2025年5月31日(土)・6月1日(日)の両日、純真学園大学 Medical Learning Center で2025年度最初の告示研修を開催致しました。5月31日は46人、6月1日は47人の方々にご参加いただきました。

福岡県では、昨年度に計10回の告示研修を開催し、さらに熊本県および佐賀県との合同開催も行いました。これらを通じて、福岡県内で462人、熊本・佐賀両県で77人の受講者を迎えることができました。毎回、ご尽力いただいているファ

シリテーターの運営も円熟の域に達しており、受講者の皆さまからも高い満足度を得ているものと自負しております。

2021年より始まった告示研修も、本年度が地方開催の最終年となりますが、今なお多くのニーズがある

と実感しております。2025年7月から2026年1月までに、あと8回の研修を予定しております。職場に未受講の方がいらっしゃいましたら、ぜひ受講をご案内いただければ幸いです。

最後になりますが、毎回、告示研修の会場を提供して下さっている純真学園大学保健医療学部放射線技術科学科の先生方、そして準備から当日の運営・後片付けまで献身的にご対応いただいている福岡県診療放射線技師会の皆さまに、心より深く感謝申し上げます。



INFORMATION



第8回

第41回日本診療放射線技師学術大会

福井への道 Go To FUKUI

丸山 力哉

(公益社団法人福井県診療放射線技師会 理事)



福井県のお土産

福井への道も第8回となり、残すところあと2回となりました。前回までの7回で福井県の魅力も伝わったのではないかと思います。学会期間中、福井会場で現地参加される方に向けて、今回は福井県のお土産を紹介したいと思います。

まず一品目は、^{はぶたえもち}羽二重餅です。福井県では、昔から絹織物「羽二重織」の生産が盛んでした。その羽二重織の滑らかさ・柔らかさを食感に再現している羽二重餅ですが、福井駅構内だけでも複数のお店の羽二重餅が並んでいます。食べ比べていただいて、ぜひお気に入りの一品を見つけてみてください。またシンプルな羽二重餅が基本となりますが、^{あん}餡が入ったもの、チョコレートが入っているもの、カステラ生地に包まれたもの、柔らかさをとことん追求した「生羽二重餅」など、さまざまなバリエーションがありますが、私が特にお薦めなのは、胡桃を混ぜた羽二重餅をシュー生地で挟んだ「羽二重くるみ」です。福井駅内の「はや川」で購入することができます。売り切れ必至なのでお早めに！



羽二重くるみ

次は鯖寿司です。全国に104件ある日本遺産の中でも、**唯一の日本遺産プレミアム**に選定されている鯖街道が若狭にあります。福井県民と鯖は昔から切っても切れない関係なのですが、福井の鯖寿司はとてもおいしいです。近年は臭みがなく、日持ちも若干長めな焼き鯖寿司が人気です。



ソースかつ丼専用ソース

その他に、鯖を使った料理「へしこ」があります。へしことは鯖をぬか漬けにした保存食です。塩っ気が強く、クセが強めですが、薄くスライスしてご飯のお供に、酒のつまみにも大活躍です。あの和の鉄人・道場六三郎のコースのメモへしこ茶漬けが絶品なんだとか…。

また前回の福井への道でも紹介されていましたが、福井といえば**ソースカツ丼**です。多くの方が食べて帰られるのではないのでしょうか。もし、ご自宅でもソースカツ丼を食べたくなったときには、**ソースカツ丼のソースだけを購入することができます**。カツ丼以外にも、意外と何にでも合うさっぱりソースですよ。

いずれも福井駅で購入できる商品ばかりです。その他にもたくさんのお土産が売られていますので、学会期間中の空いた時間にお土産選びを楽しんでください。もし、お土産を買い忘れてしまった場合には、**新幹線の改札内には、お土産の自動販売機が設置されていますので、最後のとりでとしてご利用ください**。

福井県は食がとても魅力的な県で、おいしいものがたくさんあります。お土産で悩まれた際には福井県スタッフにお気軽にお声掛けください。皆さんに会場でお会いできることを楽しみにしております。



福井のお土産自動販売機



第41回

日本診療放射線技師学術大会

The 41st Japan Conference of Radiological Technologists

放射線技術の イノベーション

〜期待される診療放射線技師の
役割に応えよう〜



2025.
9/12(金)▶14(日)

会場 福井駅前
AOSSA、ハピリン他

[現地＋オンデマンド配信]



<https://www.kwcs.jp/jcrt41/>

会長 上田 克彦 (公益社団法人
日本診療放射線技師会 会長)

大会長 村中 良之 (公益社団法人
福井県診療放射線技師会 会長)

主催：公益社団法人 日本診療放射線技師会

共催：公益社団法人 福井県診療放射線技師会

後援：厚生労働省(予定)、公益社団法人日本放射線技術学会、
福井県、福井市

大会事務局 公益社団法人福井県診療放射線技師会
〒910-0851 福井県福井市米松1丁目16-31 NTビル2階
E-mail : 41jcrt@gmail.com

赤い宝石の季節に



山形が初夏を迎える頃、赤い宝石にも例えられるさくらんぼの季節が始まります。近年ではハウス栽培も増えており、5月には初物が出荷されますが、いわゆる「露地物」と呼ばれ、最初に旬を迎える品種が「紅さやか」であり、酸味が強く、甘酸っぱい味わいが特徴的です。続いて最も知られている「佐藤錦」が6月中旬から下旬にかけて旬を迎えます。甘さと酸味のバランスが絶妙で、“さくらんぼの王様”とも称されています。佐藤錦は、大正時代に東根市の佐藤栄助さんが「ナポレオン」と「黄玉」を交配し、何年もかけて生み出した品種です。続いて贈答用にも人気の高い「紅秀峰」が6月下旬から7月上旬にかけて登場します。果肉がよく引き締まり、甘みが強く、大粒で食べ応えも抜群です。そして2023年に本格販売が始まった新しい品種「やまがた紅王」も、この時期に旬を迎えます。

それぞれの品種が、まるでリレーのように旬をつなぎ、山形のさくらんぼの季節を鮮やかに彩ります。

山形の昼夜の寒暖差は、果実の糖度を高めるといわれています。一つ一つ丁寧に受粉され、手間暇を惜しまぬ農家の方々の努力によって、艶やかで美しい実が育まれます。収穫期はわずか2〜3週間。果実はとても繊細で、雨や傷に弱いため、朝早くから一粒ずつ丁寧に収穫され、選別・箱詰めを経て出荷されていきます。

私が幼い頃は、さくらんぼは農家の親戚や知人から頂くもので、あまり買った記憶がありません。頂くのは、出荷には回せない、少し傷があったり色付きが悪かったり、大きさが不ぞろいだったりする「はねだし」と呼ばれるものですが、それでも味は濃く、家庭の味として懐かしく感じるのは、きっと私だけではないでしょう。

今年もまた、赤い宝石の季節がやってきました。さて、今年の出来はどうでしょうか。

(文責：鈴木 幸司)

診療放射線技師のためのフレッシューズセミナーのお知らせ

INFORMATION

プログラムは、エチケット・マナー、医療安全、感染対策、気管支解剖、胸部撮影基礎（都道府県により違いあり）など、現場ですぐ役立つ知識です。会員・非会員を問いません。

日程と会場については変更される可能性がありますので、詳細は、都道府県技師会までお問い合わせください。

■フレッシューズセミナー開催予定：

宮 城 7月 5日(土)	福 井 7月 5日(土)	兵 庫 7月 5日(土)	宮 崎 7月 5日(土)
愛 知 7月 6日(日)	石 川 7月12日(土)	大 分 7月12日(土)	岡 山 7月12日(土)
三 重 7月13日(日)	山 梨 7月19日(土)	高 知 7月19日(土)	岐 阜 7月20日(日)
長 野 7月26日(土)	山 口 7月27日(日)		

7月・8月の講習会などスケジュールのご案内

INFORMATION

- 放射線被ばく相談員フォローアップ講習会 : Web開催 2025年8月24日(日)
- 国際認定試験 (MRI・医療画像情報精度管理士) : 郵送による試験を予定 2025年8月24日(日)

■ 告示研修 (実技研修) / 業務拡大に伴う統一講習会 :

本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム (JARTIS) をご参照ください。

[e-ラーニング (ストリーミング方式)]

- 認定資格の取得を目指す在宅講習受講生の募集 2025年6月23日(月)午前0時から12月19日(金)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から各認定資格試験終了日前日まで何度でも視聴いただけます。
※本講習会を修了しないと、認定資格試験のお申し込みはできません。
- 放射線診療に従事する者に対する診療用放射線の安全管理のための研修 (在宅) 2025年7月18日(金)午前0時から2026年1月25日(日)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から2026年3月1日(日)まで何度でも視聴いただけます。
- 告示研修 (基礎研修) 2026年3月31日(火)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日から告示研修終了まで何度でも視聴いただけます。
- 人を対象とする生命科学・医学系研究に関する倫理指針オンラインセミナー 2027年3月31日(水)午後11時59分まで申し込み受け付け
※お申し込み成立の日からセミナー終了まで何度でも視聴いただけます。

- オンラインセミナー (在宅) : 本会ホームページの「新着情報・お知らせ」またはJART情報システム (JARTIS) をご参照ください。

※このご案内の公開時に、定員に達して申し込みができない講習会・セミナーがある場合がございますのでご了承ください。

事務所案内

執務時間：月曜日から金曜日の午前9時30分より午後5時30分まで。

ただし、土曜、日曜、休日、祝日、創立記念日 (7月13日) および年末年始 (12月29日~1月3日) は執務致しません。